

怪天鬼⑯

- (1) 怪天鬼は、コーチツテンゼンの屋敷へと踏み込みました。「ウハハハハ カーンラカラカラ ホータイ大名のケライ共、出てこい。怪天鬼が相手になつてやるぞ」しかし誰も出できません。
- (2) 「それではひと筆書き残していくつてやろう」怪天鬼は筆をとると、壁に「怪天鬼、ここを去る。ただし、二日のちには役人がくるであろう。その時にまた会おう」と書き、その場を去りました。
- (3) しばらくして、隠れていたホータイ大名の家来達が出てきました。「トノ、怪天鬼にはトテモかないません。しかたがないからかくれていました。おや、何か書いてあるぞ」壁には
- (4) 「二日のちに役人がくる」と書いてあります。「こまつたな、役人に会えば、このホータイが証拠になる」すると東ベエが
- (5) 「トノ、大丈夫です。ここに赤血丸が三ツづのこつています。これを飲めば別の顔になります。役人をおどかしてやるのです」「うむ」
- (6) こちらは、人殺しの犯人を探していた小天狗です。キズの手あてをすると、ヨリキの岡野のところへきました。「ホータイ大名こそ、人殺しの犯人です」
- (7) 「フーム、すると、辻斬りもバラバラ死ガイもみな、うみくずれたみにくい顔のホータイ大名のしわざだというのか。よし、さつそく老中に話して取り調べよう」
- (8) 次の日、岡野は老中の許しを得てホータイ大名のヤシキへきました。「ホータイ大名の調べに参った。ホータイすがたでもかまわぬ、わしが直々にあうぞ」「はツ」
- (9) 岡野はオクのヒトマへ通されました。「ホータイ大名め、出てくるかな」果たして…